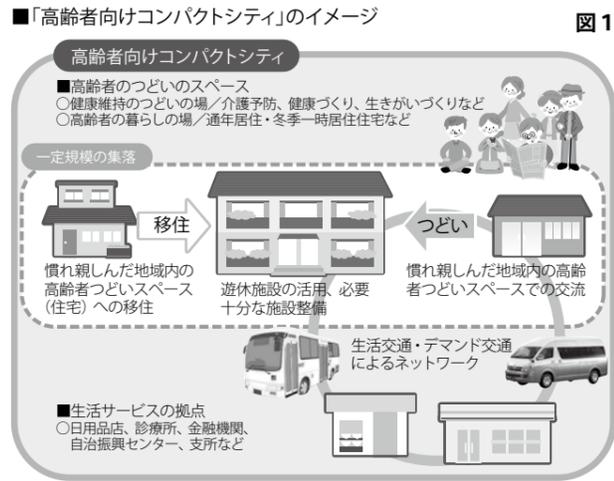


Q 庄原市の魅力づくりが先では中国やまなみ街道の用地買収時、立ち退かれた人

A 決して地域を切り捨てるわけではない。いかに高齢者の方にこの地に暮らしていただき、生涯を元気に暮らしてもらえるかを基本的に検討を進めている。皆さんに喜んでいただける地域特性に合ったコンパクトシティを進めていきたい。

Q 耐震構造でない施設は不安

A 廃校など既存の施設を利用すると、耐震構造でない施設は不安



高齢者向けコンパクトシティ
一定規模の集落ごとに、高齢者向け住宅(※)や集いの場(高齢者のつどいのスペース)を整え、その集落と小さな拠点をつなげることで、将来にわたり住み慣れた地での生活が可能となる仕組みのこと。

※高齢者向け住宅…段差がなく、手すりなどの付いた住宅で、高齢者が自立して生活できる、高齢者の方専用の賃貸住宅のこと。

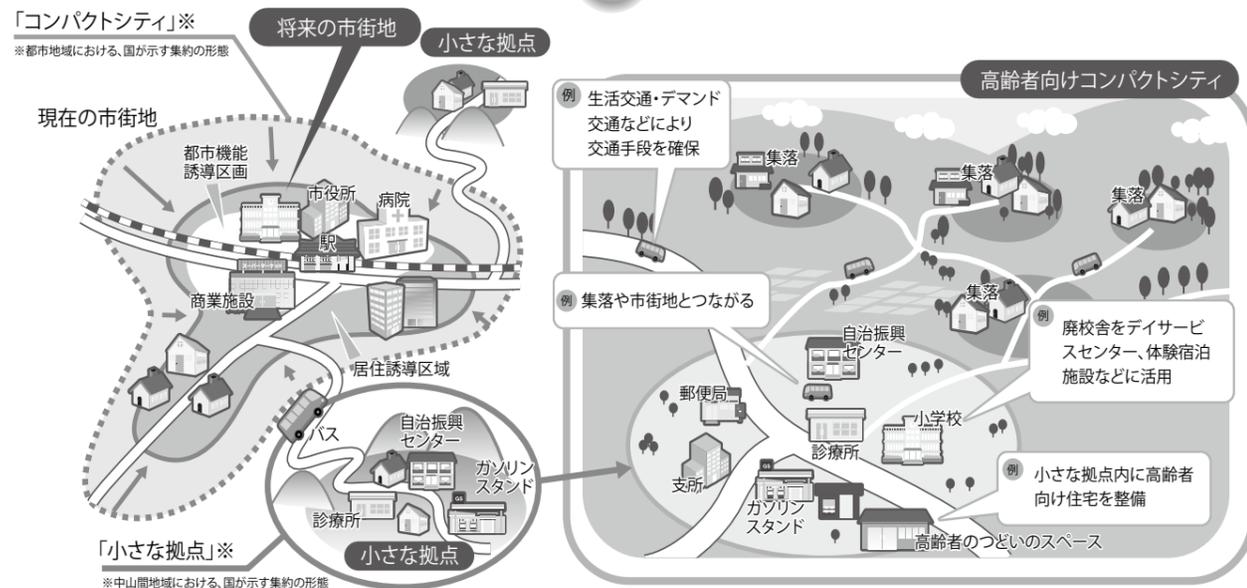
造でないものばかりだと、災害が起きた時の避難場所にもなるのに、そんな不安定なところをサービスや宿泊施設として活用しても大丈夫なのか。

Q 耐震改修促進法で、一定規模の施設については診断・改修が義務付けられているので、そうした施設は順次診断、改修を行っていく。

A 総領自治振興区では、総領中学校の元寄宿舎を利用して宅老事業を進めていきたいと考えている。介護保険法の改正が行われる平成29年4月には、そこが使える状態にしたい。皆さんと一緒にこのコンパクトシティが良い方向になるように取り組んでいきたい。ぜひご支援をお願いする。

Q 提案されたことについて参考にした上で、一緒に取り組みたいと思っている。10年先、20年先を見つめ、地域を維持することで、地元をあきらめず外に出て行くという流れを防ぎたい。当面、何地域かでモデル的に取り組みたいと考えている。

図2 近い将来での「高齢者向けコンパクトシティ」のイメージ



平成27年度

市政懇談会

特集

市が行う政策や事業に対し、市民の皆さんからご意見を伺う市政懇談会を7月24日から9月8日までの間、市内9会場で開催しました。

各自治振興区や自治会の代表者のほか、一般参加者を含め延べ401人(庄原166・西城50・東城68・口和41・高野17・比和30・総領29)が参加しました。

今回も共通テーマと地域テーマを設定する形式で行いました。共通テーマとして「第2期庄原いちばん基本計画(以下、『いちばん計画』)について」を設定し、この計画の概要と分野別政策のうち「暮らしの安心」のいちばんに掲げる新たな事業「高齢者向けコンパクトシティ(図1)の検討」について説明しました。地域テーマは地域ごとで設定し、それぞれの地域で活発な懇談・意見交換が行われました。その一部を抜粋してお知らせします。

今回寄せられた提案や意見などは協議検討を進め、今後の市政運営に生かしていきます。



共通テーマ

第2期庄原いちばん基本計画について

高齢者向けコンパクトシティに関すること

いちばん計画との関係性は

Q いちばん計画と言いながら、いきなりコンパクトシティという話が出てきた。いちばん計画にコンパクトシティがどのように関係するのか少し理解に苦しむ。

A 第2期いちばん計画の着眼点として「生活の安心」と「地域資源の活用」の2つを挙げた。コンパクトシティは安心を感じることでできる生活環境の集約化ということで、今後の超高齢社会への対応のひとつとして特に着目して説明を申し上げた。

どこに重点を置き実施するか

Q コンパクトシティの近い将来(図2に示すイメージ)とは、どこを重点にしているのか。

A 近い将来とはすぐに単年で全域で行うということ



いちばん計画について説明する職員

でなく、地区によりニーズが違うので、当面、何地域かでのモデル的な実施を考えている。最終的に全域で整備する考えである。

Q 心強い施策として期待したい

A 高齢者向けのコンパクトシティ着手については、非常に心強く敬意を表する。えてして、田舎を捨てるのか



自主防災組織育成研修会の様子

地域産業のいちばんに
関すること

比婆牛の取り組みの強化を

Q 比婆牛の増頭支援では、和牛飼育農家に1頭増頭をお願いし、ホルスタイン牛には、和牛から採卵した受精卵の移植を、スピード化し取り組んで行くことを考えたかどうか。

A この取り組みには子牛の生産が必要であり、広島県種雄牛の人工授精、受精卵移植の取り組みを進めている。市内には1頭〜3頭飼いの農家が多いが、高齢者が多くさらに増頭していくのは非常に困難である。

これまで和牛振興に関する補助は市の補助金だけだった



比婆牛の振興

が、本年度、県が和牛飼育を始める方や地域ブランド牛の取り組み拡大を行う方に、畜舎の建設や牛を導入するための支援事業を創設した。今年繁殖農家で50頭を飼育している方がこの補助事業を活用し、さらに30頭増やす計画である。

少数飼育農家の維持と、増頭できる方の拡大支援の両方をしっかりと取り組んでいく。

価値の出る山林整備を

Q 「林産資源」の記述があるが、項目にはなく触れられていないのは物足りない。山林の価値が無いのは木自体の価値が無いのもあるが、小さな区域で区切られた山がたくさんあり、現在は境も分からない状態だ。山林版ほ場整備をして大きな区域にして活用すれば、もっと価値が出るのではないかと。

A 森林整備加速化事業といたった県や国の補助金を活用しながら、森林の基盤整備に努めている。森林組合を中心に森林経営計画をつくり、まとまりのある区域で間伐などを行っている。継続して豊富にある林業資源の活用



箱わなで捕獲されたイノシシ

を図っていききたい。

ジビエの産業化を

Q 有害鳥獣対策の強化が掲げられているが、これだけ過疎が進み、田や山が荒れれば、イノシシが出てくることは必然である。フェンスの設置をすすめるだけでは、基本的な対策にならない。

例えば、ジビエの産業化が全国的には進んでいる。食肉加工できる環境を整備して産業を興せば、そこで働く人や狩猟者の確保が必要になり、それを支えるマーケットも潤うのでは。

A ジビエについては、廃校で使われなくなった調理場を改造して活用したらどうかという提案をいただいたこと



再開発が進む備後庄原駅前

自治振興区の担う役割について、具体的な内容や時期は示せないが、今ある地域資源の中で何ができるのか考えていただき、市としてもそれを支援していききたい。これからの「地域包括支援ケアシステム」の充実に向けた取り組みに、引き続きご協力をお願いしたい。

にぎわいと活力のいちばん
に関すること

だれもが住みたいと思える庄原市を

Q 空き家の解消に向け自治振興区でも動いているが、極めて経費のかかる仕事である。それでも今やらなければならぬという気持ちで

ともあり、検討を行ってきているが、現在そうした施設を整備するという結論には至っていない。

暮らしの安心のいちばんに
関すること

庄原赤十字病院の産科再開のめどは

Q 庄原赤十字病院の産科再開の話が出てから長い時間が経っている。これについての見通しは。

A 県などに対し産科再開に向け絶え間なく働きかけている。本年4月から産科がほぼ再開できるという話を県からいただいたが、人員確保のめどが立たず再開はかなわなかった。引き続き産科の再開に向け努力していきたい。

高齢者が元気で暮らせる取り組みを

Q 高齢者になってもいかに元気で病気になるか暮らし方ができるかを考えていく必要がある。高額な医療費を少なくするために自治振興区と連携して考えてほしい。

A 一番大事なのは、自分の健康は自分で守るという

取り組みを行っている。市も定住対策に対する予算を充実させ、住みたいと思わせる元気で特徴のあるまちづくりを進めてほしい。

A 定住の取り組みは、インフラ整備から医療、福祉、子育て、教育と全てのことが関係して行く。人口減少・定住対策が大きな課題と認識しているので、できるだけ努力をしていきたい。

入り込み客増につながる駅前整備を

Q 備後庄原駅前の整備は、国営備北丘陵公園へのアクセスを良くして、観光集客を増やすことが当初の目標だったと思う。先般の新聞記事に予算がつかないといった内容が掲載されていたが、早期に完成させて市の玄関口として活用を図ってほしい。

A 駅前は備北交通バスと芸備線鉄道の結節点になっている。現在、駅舎に観光案内に関する機能というものが無いので、観光客を市内の施設にスムーズに誘導できるように、駅舎の改修に併せて案内機能を整備していきたい。



地域テーマ

総領会場／7月24日
総領自治振興センター
「子ども事業の取り組みについて」

子ども事業について意見を

Q 昨年度から、地域振興計画に掲げる安心安全のために、福祉・教育・定住の3つのプロジェクトをスタートした。その中の教育プロジェクト(子ども事業)について、活動の方針や自治振興区のある方など、行政との協働、補完の視点から意見を求める。

A 地域を支えて動かすエンジンとなるのは教育であり、その根幹となるのは人づくり。いかにして子どもたちを育てていくかが私たちの使命だと思う。そういったことから、大変素晴らしい企画をされ、実際に取り組んでおられると思うし、課題を分析されていることも素晴らしい。学校、地域、家庭が一緒になって子どもを育てようという積極的取り組みがされており、これからも地域で力を合わせて取り組んでいただければと思う。



事業に活用できる財源を教えてください

Q 子ども事業は活動促進事業補助金を財源としているが、この事業を続けていくのに何か財源があれば教えてください。

A 活用できる国や県の補助金が無いかわりに、良い補助事業があればお知らせしていきたい。



放課後塾で数学を学ぶ中学生

庄原(高・本村・峰田・敷信・北)会場／7月27日
庄原市ふれあいセンター
「各自治振興センターの事務室および駐車場等を含む不足設備の拡充整備と再整備の早期実施について」

●高自治振興区

事務室の拡充をしてほしい

Q 事務室が手狭で、図書室を事務室にという検討をしていたが、図書室というのはこの振興センターでは中核的な部屋である。生涯学習の場所として利用される団体が多く、会議で使用することが多い。ここを事務室にすると会議できる場所が無くなり、活動場所も2階に限られるため、高齢者の方が利用するに



高自治振興センター

は厳しすぎる。

A 事務室を約12㎡に拡充する要望をいただいているが、建築基準法では10㎡を超えると建築確認などの手続きが出てくる。法的には可能だが時間と経費がかかるため、10㎡程度の拡幅で対応が可能か協議させていただき、検討していきたい。

●本村自治振興区

緊急避難場所にふさわしい整備を

Q 現在の自治振興センターは元小学校を利用していているが、緊急時の避難場所になっているがそれに対応できるような整備してほしい。

A 現在利用していない2階の空き教室を避難場所として利用できるような整備してほしいとの要望であるが、建



●敷信自治振興区

ふれあい広場にトイレ整備を

Q 現在の自治振興センターは、会議や研修室など住居に比べて狭い。緊急時の避難場所として利用しているが、トイレの整備を希望している。

●峰田自治振興区
駐車を拡充してほしい
Q 自治振興センターの駐車場が狭く、急な坂があるので出入りも不便である。駐車を拡充し、利用しやすいものにしてほしい。
A 新たに用地を取得して整備すると時間と経費がかかってくる。地元の皆さんの協力が必要であり、振興区の皆さんと話をさせてもらいながら進めていきたい。



民が使う会場のほとんどが2階にあり、高齢者の利用が難しい。JAの建物の一角を借り、敷信区民ふれあい広場として1階を整備して使っているが、トイレが不便だ。

A JAの所有の施設であるため、JAと協議の上で検討していきたいと考えている。

●北自治振興区

施設利用する障害者への対応を

Q 現在会議室は2階にあるが、身障者の方が2階に上がるのは困難だ。階段を上れる車椅子があると聞いているので、市がリースするなどの手段を準備していただければ、いかなる人が役員になられても十分対応できるし、安心もできるので検討をお願いします。



いしたい。
A 他の自治振興区でも同様の状況だと思うので、どういった方法が可能なのか調査検討したい。



住民告知端末

庄原(東・山内)会場／8月3日
東自治振興センター
「高速通信網(告知システム) 停電時の緊急通報体制はどうするか」

停電時の対策はどうするのか

Q 告知システムは停電時に作動しないと聞いている。必要な時に作動しない可能性があるため、停電時の対策を示してほしい。
A 今回整備する告知端末には、市から1時間ごとに信号を送り、その返信を受けられることによって通信状態を確認

●高自治振興区

観光施設の充実を図ってほしい

Q 中国やまなみ街道の全線開通で口和ICの利用は増えているが、入り込み客増にはつながっていない。口和地域の観光施設の充実を図るべきではないか。
A モーモー物産館の課題について考え方を述べる。



モーモー物産館

認する機能がついており、停電などで通信が途絶えたことを把握することが出来る。該当地域には広報車などによる重点的な巡回広報の実施を考えている。

口和会場／8月5日

口和自治振興センター

「中国やまなみ街道を利用した地域の活性化について」

モーモー物産館にトイレの増設を

Q モーモー物産館はトイレが少ないので、観光バスが入ってこない。行政がトイレを増設するため来年の予算に計上すれば物産館は喜ぶ。そういう答えがほしい。
A トイレを増設するだけで集客ができるなら約束を



モーモー物産館は、名前を付けている口和地域の思いが込められた建物だ。モーモー祭もあり、過去優秀な比婆牛を非常に多く輩出した地域で、比婆牛に対する思いを強く感じられる。一つの視点として牛にこだわった施設づくりに取り組むべきでは。
特に昨年から比婆牛の取り組みを始めているので、皆で知恵を出し合えばと思う。

高野会場／8月11日
上高自治振興センター
「農業振興による活性化について」

農家の意識が変わってきた

Q 道の駅が出来てからは、農家が自分の作った農作物に値段を付けて売れる仕組みができた。これまでは、損得度外視という農業だったが、採算がとれるように値段を設定し販売されており、農家の姿が変わりつつあると感じる。



A 公社の運営に対しては「心配をおかけしている。現在は農作業の受託一本に絞

Q 農林振興公社の対策は
A 比和は地形的に集落営農や法人化は難しく、合併前に比和町農林業公社を作った経緯がある。現在、公社への依存度はますます高くなっている。しかしながら、若い職員が次々とやめていく状況があるので、若者の定住施策とあわせ人材育成を進めていきたい。公社の看板が比和町時代のままなので新しい看板の設置を。

比和会場／8月27日
比和自治振興センター
「人口減少時代における農地の保全について」

個別の施策を考えていきたい。



Q 価格設定の指導をすべきでは
A 県立の高校や大学で生産されたものが道の駅で安価で売られている。それを基準に農家が値段を安く設定せざるを得ないという問題がある。市から価格設定の指導があってもよいのではないかと。

A 高野地域は自ら作ったものの価値をしっかりと見極めていく。その中で「価格が高い」という評価はあるが、それは「地域で作っているような店は安いだろう」というイメージがあるからであろう。(百円市のイメージ)だが、今は「良いものだから高い。高くても当たり前だ」という店や消費者が増えて、農家の皆さんも変わってきているので大いに自信をもってほしい。

西城会場／9月3日
ウイール西城
「エネルギーの自給と雇用の拡大」

A 現在の代表も委員として入っている。この中でどんな支援が必要か提示いただくようお願いしたい。

Q 営農集団の活用策を
A 現在の代表も委員として入っている。この中でどんな支援が必要か提示いただくようお願いしたい。

Q 営農集団を活用して、地域のにぎわいができるような取り組みを進めていただきたい。
A 現在、庄原市農業振興計画を策定し、営農集団の代表も委員として入っている。この中でどんな支援が必要か提示いただくようお願いしたい。



Q 海外出荷に対する支援を
A 青森のりんご、鳥取の梨、和歌山のみかんは海外へ出荷され、主に中国、韓国の富裕層が消費しているようだ。中国の富裕層の数は日本の人口に匹敵し、高値でも売れている。よって、そういった売り込みについて、しっかりと支援してほしい。

Q 紹介の事例は、自県で消費する量よりもはるかに多い量を生産しており、生産量と消費とのバランスをみて輸出という方法を選んでいいか。
A 消費する量よりもはるかに多い量を生産しており、生産量と消費とのバランスをみて輸出という方法を選んでいいか。



にぎわう道の駅たかの



庄原自治振興センター

Q 提案の事業は、市の直営による事業実施は難しいと判断しており、民間企業や団体の事業化支援に限定されるものと考えている。現段階で企業や団体などから具体的な提案、支援の要望などはいただいているが、今後の動向を注視していく。

Q ギーの自給を
A 木を蒸してガスを発生させ、そのガスで発電タービンを回し電気を生み出す「ガス化発電」施設を集落単位で設置し、エネルギーを自給することを提案する。これによって、新たな雇用機会が生まれ、移住者の増も期待できる。



東城会場／8月26日
東城支所
「人口減少社会における農山村の活性化について―田園回帰の定着に向けて―」

。中国、韓国での購入価格は高いが、いろんな流通経路をたどっている。生産者の価格は国内販売価格とほぼ同じになっているのが現状。庄原市でも海外への輸出も検討しているが、県内需要にも対応できていない商品が多い。また、輸出する相手国によってルートが決まっており、現状でそのルートに入ることは難しい。特に高野ではトマトが高い評価を受けており近畿圏で売れているので、まずは今の販路を大切にしていきたい。

Q 要望に対する回答を
A 昨年9月11日付で、今回のテーマと同様の要望書を提出している。提出から1年が経過しようとしているが、市の基本的な方針や事業計画的なものは、いまだ回答がない。区民が納得できるセンター施設の整備や基本的な方針の回答をお願いしたい。

庄原(庄原)会場／9月8日
庄原市民会館
「自治振興センターの建設・整備および大規模改修について」



Q 本年度の新たな事業が3つある。一つは「里山スタイル新生活創造事業」。庄原市にある資源や環境を活用した庄原らしいライフスタイルを広く都市部などへ情報発信する。二つは、定住を考えている方、定住しようとする方が安心して定住するための相談役支援員として新たに「移住定住コンシェルジュ」を

Q 市独自のライフスタイルの提案を
A 庄原市に住みたいと思わせる情報提供が必要で、収入が減っても生活ができるライフスタイルの提案も重要である。ちよつとした農業体験や定住フェアなどの情報提供が移住を真剣に考えるきっかけとなる。長期滞在が試せる制度を創設してみてもいいか。



古民家を改修し、庄原暮らしを楽しむ人



Q 市民会館の改築とは切り離して自治振興区の施設整備を図っていただきたい。整備内容の基本的な考え方を、いつまでに提示いただけるのかを確認したい。
A 長期総合計画の中の実施計画前期5年分(28年度〜32年度)を年内にまとめる。具体的には申し上げられないが、12月にははっきりした形を示せるのではないかと考えている。

Q 市の特徴を生かした施策を
A 定住は浪漫だけでは進まない。新しい暮らしを具体的な仕組みとして示す必要がある。庄原市の資源を最大限に活用し、特色ある庄原市にしかできない施策を期待する。



Q 対象者を限定して、今暮らしている方、庄原を古里とする方、新規転入希望者の各ニーズを分析しながら、

設置。三つは、「しようばら生活体験施設整備支援事業」。自治振興区に事業主体になってもいい、いわゆる「お試し暮らし」に必要な施設を整備(空き家の借り上げや改修)して、転入希望者に事前に庄原での生活を実体験してもらう。引き続き、転入定住の促進に努めていく。